

## Lalita Ramdas' open letter to Akie Abe

私や他の多くのインド女性は、あなたが原子力発電に反対されていることを知って心から嬉しく思っています。あなたの発言は昨年、インドで広く報じられました。私たちは力強い援軍を得た思いです。

” 昭恵さんはNPO団体主催の講演で、「（安倍政権が推進する原発輸出について）私は原発反対なので非常に心が痛む」と語った”

もしかしたらあなたの発言は、あなたの夫の政治面・経済面でのお仲間には支持されないかもしれませんが。しかし私たちは、世界の何百万もの人たち——この世界に核技術が登場して以来、大小の惨事に苦しんできた人たち——があなたを支持していることを確信しています。

あなたの国は中でも最大の被害者です。まずは広島・長崎の原爆によって、そしてフクシマによって——悪夢は今も進行中です。

放射能がとりわけ女性と子どもに強い影響を与えること、放射性廃棄物を安全に貯蔵する技術がまだ存在しないことを、あなたはよくご存じのはずです。

どうぞ昭恵さん、インドを訪問されるこの機会を利用して、インドの政治家や企業家たちに、原子力問題の安全で安価な解決法はないことを語り、理解させてください。

そして何よりもあなたの夫の耳にささやいて下さい。この重要な問いを——友人であるアジアの国に、ダーティーで危険な核技術を輸出することでカネを儲けるべきなのかどうか、と。

わたしたちはあなたの訪印を心から歓迎します。そして数えきれないインド女性があなたの声に勇気づけられ、あなたを尊敬していることを忘れないでください。

ラリター・ラームダース

ラリター・ラームダース氏はインドの著名なフェミニスト・環境活動家。



## 日印原子力協定に、両国市民が連帯して反対しなければならない理由

2014年5月開票のインド総選挙で大勝し就任したインドのモディ首相は同年8月、東京を訪れました。両国は、日本の核技術のインドへの輸出を可能にする「日印原子力協定」の締結交渉を進めています。日本国内の原子力産業は、協定の実現に向けて強い圧力をかけています。また米国やフランスも、インドに輸出する自国製原子炉に日本製の部品を必要としているため、圧力をかけています。にも関わらず、交渉はいまだに未決着です。

この協定はインドの時代錯誤的な原発拡大政策を後押しすることになり、インドで最も弱い立場にある住民に苦難をもたらすことになります。フクシマ後の世界において、インドは原発推進を強力に進めようとする数少ない国の一つです。しかし草の根では、各地のプラント計画に人々が強く反対しています。

インド政府は新たな核施設建設計画を実行する上で障害となるあらゆる物を、ま



Massive people's struggle in Koodankulam faced brutal repression and police firing

るでブルドーザーのように強引に押し切ろうとしています——安全基準を薄め、無意味化すること、人々に銃口を向けつつ環境影響アセスメントを押し通し、核関連事業の透明性を低めること、事業の採算性に関するアドバイスを無視すること、草の根の民主的な原発反対運動を力で押しつぶすこと、核施設の提供メーカーを事故時の賠償責任から解放する努力——。インドの複数の地域で、既存のプラントや新規原発計画に反対する大規模で草の根的な抗議運動が続いています。しかし政府は罪のない農民、漁民、女性、子供があげるこうした声に対し、暴力で応えています。政府は反原発運動の参加者を「国家安全保障上の脅威」と位置付けています。また近年、日本人を含む複数の外国人反核活動家を国外に追放しました。

# Why the India- Japan Nuclear Agreement is a Bad Idea

この協定の締結は、インド核武装の正当性にお墨付きを与え、南アジアの核兵器開発競争をさらに激化させることでもあります。輸入ベースで原発開発を進められれば、インドは国内で産出する核物質をすべて核兵器開発に振り向けることができるからです。

インドと日本の意識ある市民たちは、この協定締結に反対してきました。2014年1月、安倍晋三首相のインド訪問の際には、インド各地で何千人もがポスターを掲げる抗議集会に参加しました。市民団体の著名な代表たちが安倍首相と彼の妻に、協定の再考を求める手紙を送りました。東京や大阪でも、インドでの抗議に連帯する集会が開かれました。

企業社会主導で、核兵器開発への危険性をはらむ日印核協定に「ノー」の声を響き渡らせ、市民主導で人間中心の日印関係に「イエス」の意思を示すことが、人類の未来にとって重要であることを確信しています。

## フクシマを否認する インド政府

インド核エネルギー省はフクシマの事故の重大さをいまだに受入れようとしていません。福島第一原発で事態が悪化し続けた2011年3月11日、同省幹部は「あれは事故ではなく、通常のメンテナンス訓練に過ぎない」と語っていました。フクシマ後に政府が行った安全性の再検討は内部的なものにとどまり、そこで示された不十分な提言すら、最近稼働したクダンカム原発（南インド）では実行に移されませんでした。原子力規制当局の元担当者を含む多くの科学者が、規制当局の権限が不十分で、安全に関する意識が見かけ倒しに過ぎないことに疑問を呈しています。インド会計監査局は昨年、同国原子力規制委員会について、規制対象である原子力省からの独立性が確保されていないと指摘しています。

フクシマの事故は発生から4年が過ぎた今も現在進行形であり、放射能が人々の生活を危険に晒しています。しかしインド政府はこの事故を「終わったもの」と考えています。ある閣僚は2013年8月、議会に対し、フクシマの事故が人々に及ぼし得る影響は「実質的に重要なものではない」と述べました。



Poster which hundreds of people used when Shinzo Abe visited India this January

しかしインドの草の根の原発反対運動や反核団体は、フクシマの事態を注視しています。フクシマの事故の写真や次々に明らかになる新事実が、彼らの反対運動を活発化させています。またそれは、彼ら自身の生計手段や、次世代の安全性へ



の懸念に基づくものでもあるのです。  
時代に逆行し拡大するインドの核開発

- 核技術は独立後のインドにとって近代化の夢であった。人々はそれを支持し、核エネルギー省は過度な影響力を持つにいたった。
- インドの核開発計画が公式にスタートしたのは1948年であり、世界で最も早い時期に開発を始めた国の一つ。
- しかしインドの原子力発電は実績に乏しい。今日、総発電量に占める割合は3%に過ぎない。
- 核兵器開発部門は秘密のベールに包まれており、関連施設周辺に住む人々の懸念は、何十年間も無視され続けている。
- 転機となったのは2005年。米国が、1974年のインド核実験を受けて実施されていたインドとの核技術取引禁止措置を撤回した。
- 上記の取り決めに際し、インドは米国、フランス、ロシアなどから原子炉を輸入することを約束した。入札や費用対効果の分析は行われなかった。
- インド政府がフクシマの事態を受け入れず、自国民に暴力をふるいながら原子炉を押しつけているのは、この米国などとの約束を果たすためである。
- インドは2052年までに、現在の原発の発電量（5870メガワット）を100倍加する計画である。